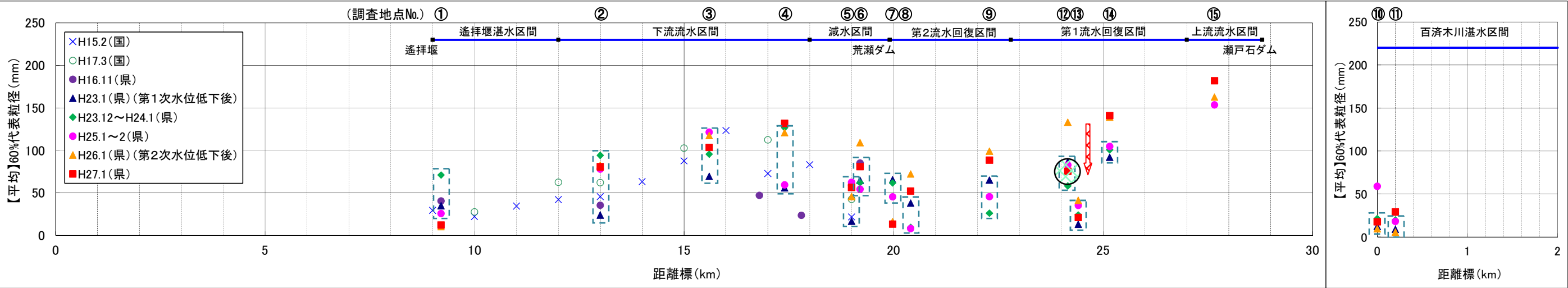


5) 底質（粒度組成）

評価項目	視点	平成 26 年度の調査結果概要
粒径の変化状況	60%粒径の変化状況	・横断平均について、第 2 次水位低下前の変動幅と比較すると、荒瀬ダム上流(第 1 及び第 2 流水回復区間)において、変動幅を超過する地点が多い(粗粒化の傾向)。荒瀬ダム下流は、変動幅内にほぼ収まっている。 ・箇所別に見ると、遙拝堰湛水区間及び下流流水区間は、変動幅内にほぼ収まっている。ただし、②左岸及び④の左右岸は超過しているが、蛇行部であるため元来変動が大きい可能性がある。 ・減水区間の⑥は淵を形成する大きな蛇行部であるが、外岸側(左岸)で粗粒化(H25～26 年度)、内岸側(右岸)で細粒化(H26 年度)の傾向が見られる。 ・ダム上流では、湛水域から早瀬に変化した⑧中央及び⑨右岸で、H25 年度に粗粒化した後、H26 年度に細粒化している。⑫左岸(蛇行部の内岸側)では前年度と比較して細粒化の傾向が見られるが、出水及び河川工事の影響が考えられる。

60%代表粒径の分布状況



【凡例】

- : H26 年度 (H27. 1) に過去の変動域を大きく超えた点
- ⊗ : H26 年度の仮設、掘削による変化を受けた点
- ⊗ : H25～26 に大きく変化した地点
- : 第 2 次水位低下前の変動幅

